

# 令和元年度 第2回白根巨摩中学校自己評価書（後期）

令和2年1月8日作成

校長 芦澤 秀幸

記述者 教頭 浅利 進

## 学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中学生の育成」

- ・強い体と心をつくる（心身の調和的発達）
- ・すなおに見聞きし、考えて行動する（素直さ、考え意見を持つ力、実践力）
- ・美しいものを愛し、自分で創りだすよろこびを知る（本物・本質志向、創造力）
- ・働くことを好み、力を合わせてがんばりぬく（貢献、協働、努力、粘り強さ）

## 取組重点

- 1 「主體的・対話的で深い学び」の実現に向け、情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べることができる資質・能力と態度の育成を図る。また、そのための授業改善に努める
- 2 道徳教育の充実を図り、思いやりと感謝の心を持ってともによりよく生きようとする人間性豊かな生徒の育成に努める。
- 3 生徒会活動における「4つのこだわり（あいさつ・清掃・服装・時間）」の取組を通し、こだわりの理由・意義を考えながら自主的・自治的な活動のできる生徒の育成に努める。
- 4 一人一人が安全で安心な学校生活を送ることができるよう、施設・設備をはじめ生徒を取り巻く教育環境の充実を努める。
- 5 十五の春を見据え一貫性のある教育活動を目指した小中学校の連携を推進するとともに、家庭・地域との連携をより深め、みんなでよりよい生徒の育成に努める。

## I 全体評価

※A：5点，B：4点，C：2点，D：1点と換算し平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価について考えていきたい。なお、生徒アンケートについては平均4.0を目標とした。また、生徒及び保護者は平均4.0を目標とした。

全18項目中14項目が目標を上回る結果となった。得点分布に関しては以下のとおりである。

4.5以上 14項目，4.4以上4.5未満 3項目，4.1以上4.3未満 1項目

前期と比べると自己評価がやや下回る項目はあるものの、全体の平均は前期同様目標の4.5を上回る結果となった。特に学校をより良くするための協力、生徒の健康安全、教職員としての自覚についての項目は4.8と非常に高く、本校をより良い教育現場にするために責任を持ち、生徒に対してきめ細やかな指導を心がけていることがわかる。しかし、「教科指導」の「あなたは学習の定着を図るため、計画的な家庭学習の手だてを行っている」の項目については、4.3となっており若干上がったものの最も低い評価であった。改善はみられているが、今後も課題として、効果的な家庭学習への取組を進めていく必要がある。また、「特別活動」の項目は3項目において、やや目標値を下回っているが、生徒アンケートからは肯定的な結果を得ていることから、教師自身の取組についてどの視点でどのように改善していくか検証していく必要がある。今後も本校の学校教育目標を基に、現状に満足せず、さらによりよい教育環境や教育活動を目指して、その指導工夫していきたい。

II 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	<p>◇領域平均は4.6であり、前期同様、教職員は互いの協力体制のもと、学校教育目標の具現化に誠実に努力しているといえる。</p> <p>◇職務上の報告、連絡、相談、確認を行い、学年・部活動・委員会等、担当相互の信頼関係も良好である。それぞれの担当が相談しながら取組を進めていることがわかる。多くの視点から指導を行える環境にある。</p> <p>◇学校運営の各項目すべて目標数値に達しており、教職員が学校教育目標を基に、自覚と責任をもって教育活動を行っているといえる。</p> <p>◇「特別な教科 道徳」については平均値は4.5ではあるが、A、Bの割合はややBの方が多く、今後も道徳の授業について、教科書の使用や、評価への取組について研究を進めていきたい。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に向けての課題を明らかにし、重点項目の設定をする。教職員一人ひとりが、再度学校経営方針をについて意識しながら、教育目標を達成できるよう、生徒の実態に応じてきめ細かい教育活動を他の教職員と連携しながら推進していく。</li> <li>・学校全体の教育活動に対して、相互理解のもと組織的に取り組み、PDCAを意識した、工夫と向上を目指し研究を推進する。</li> <li>・各自が勤務効率を考えた働き方についてセルフチェックを行い、互いにフォローできるように支え合う。また、管理職が教職員のメンタルヘルスについて細心の注意を払うよう心がける。</li> </ul>
2 教科指導	
達成状況	<p>◇教師アンケート⑤「あなたは基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。」は4.7となり、前期よりやや低いものの、ほぼ全員が基礎基本の大切さを意識している。校内研究で取り組んでいる「生徒が主体的に表現しあう授業の創造」を推進している。</p> <p>◇生徒アンケートのABの肯定的回答が④「学校の授業は楽しいですか。」が90%、⑤「学校の授業はわかりますか」が91%を超え、前期より上回る結果となった。しかし昨年度とほぼ変化がない状況であり、今後の授業に対する課題が残る。</p> <p>◇保護者アンケートのABの肯定的回答が④「お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか」は76%で設問中最も低く、⑤「学校は基礎学力定着のための指導をしていると思いますか」が89%となっており、学校の指導については理解しているが、成果については課題があると考えていることがうかがえる。</p> <p>◇家庭学習においては、否定的回答CDが、教職員10%、生徒約17%、保護者22%と、いずれも設問中でも低い評価となっており、学力に関する回答と合わせても、今後の組織的な取組が必要と考えられる。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査や学力把握調査の結果分析を行い、校内研究会において共通理解を図ることができた。授業改善への課題を研究していく。</p>

対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまなしスタンダードを基にし、さらに意識した授業改善の取組を推進する。</li> <li>・「学びの甲斐善八か条」の活用や、家庭との連携、家庭学習の時間の確保と、習慣化について、現状の把握と改善について研究を進める。合わせて生徒の連絡帳（スマイルライフ、やりとり帳等）や定期試験の学習計画表の取り組み表を活用して計画的に家庭学習を進めるように指導する。</li> <li>・今年度の校内研究の取組を生かし、発問や板書を工夫し、生徒のノートの取り方の工夫や話し合い活動を主体的に行えるよう、生徒の達成感や充実感を味わえるようにする。さらに授業改善に取り組んでいく。</li> <li>・教師個人の力量を高めるために、互いの授業を参観する機会を確保できた。また互いに工夫や改善について話し合うことで、具体的に改善していくポイントについて共通な認識を持つことができた。</li> <li>・管理職による授業観察を通して、具体的な指導・助言を行えた。</li> <li>・ICT活用を積極的に行うために、それぞれが研鑽を深めるとともに各教科や学年等で共有していく。</li> <li>・昨年同様、保護者アンケートの数値の結果や記述内容から、基礎学力の定着や家庭学習の習慣について、学校への期待が伺える。「補充・発展の時間」の効果的な活用、内容の充実に向けて努力したい。</li> </ul>
----	---

<b>3 生徒指導について</b>	
達成状況	<p>◇平均得点は4.7で、前期より0.1ポイント下回ったが、⑧「あなたは問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決に努めている」の項目も高い評価となった。これは担任・学年・部活動顧問・生徒指導等を中心に職員の共通理解のもと、組織的に指導が行われている結果とみることができる。年5回の心配事アンケート調査とそれにともなった個人面談等が行われている。</p> <p>◇生徒アンケート③「困ったときに相談できる人がいますか」については、前期と同じであるが、①「学校生活は楽しいですか」の項目において肯定的回答は90%を超えることから、学年によって差はあるものの、生徒に寄り添った指導がなされていると考えられる。</p> <p>◇不登校等のケース会議を関係機関や中学校区の小学校と連携して行い、生徒の生活環境も含めた生徒指導に心がけている。</p> <p>◇大きな問題につながる生徒指導がなく、未然防止の取り組みは続けている。</p> <p>◇保護者アンケート⑧「学校は、子どもの困ったことや悩み事等に、対応していると思いますか」の肯定的回答は91%を超えているが、学校での様子について、子どもとのコミュニケーションについて、保護者は87%、子どもは80%とやや低いことから、家庭や学校でも対応できていない面も予想される。学校での生徒一人ひとりの様子を注意深く見守り、保護者ともより一層の連携を取る必要がある。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も全教職員が相互に連携し、学校としてのきまりや指導重点について共通理解し、組織的な生徒指導を行う。また、今後も報告・相談・記録などを丁寧に行い、必要に応じて関係機関とも連携していく。</li> <li>・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、道徳や総合、特別活動などの授業を通し、心の教育をさらに充実させたい。さらに、問題を抱える生徒や人間関係について、その情報共有を素早く確実に担任や学年に行い、家庭にも伝えることで、早期に解決する。</li> <li>・小学校との連携を密にし、小学校での様子や人間関係を共有し、特に1年生の状況を把握する中で、相談できる体制を構築していく。「生活記録ノート」や「悩み事アンケート」、担任との二者懇談等、日常的な生徒とのコミュニケーションの中から、トラブルを未然に防ぐように対応する。</li> </ul>

4 特別活動	
達成状況	<p>◇教員アンケートはこの項目の平均は4.4で、前期と同じである。⑩「あなたは人間としての在り方や生き方を指導し、豊かな心を育てようとしている」は4.5だが、それ以外の項目は4.4と目標を0.1ポイント下回っている。しかし、生徒アンケートの「特別活動」の項目の平均は4.6で、生徒アンケートの回答でも高い結果が見られる。生徒たちの「特別活動への取組」の意識は高いことがうかがえられるが、教職員はより高いレベルを目指した取組を行っていると考えられる。</p> <p>◇生徒アンケートでは、すべての項目で高い肯定的評価であった。「生徒会活動」「行事への協力」「合唱活動」のいずれにも93%以上の生徒が意欲的に取り組んでいることがわかる。なかでも⑨「合唱に意欲を持って取り組んでいますか」については、95%以上の肯定意見が回答されている。今年度の合唱コンクールにおいても、保護者の参観も多く、講評の先生方も含め、数多くの好評を得ている。</p> <p>◇教員アンケート⑫「あなたは部活動の指導に適切に取り組んでいる」について、後期は4.4ポイントとなり、前期よりも0.2ポイント上回った。生徒の熱心な取組に応える教職員の姿があると感じられる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の伝統である合唱の取組も含め、本校生徒が特別活動の多くの場面で、意欲的で真面目に取り組んでいる様子が見られた。そのことから、人間関係の構築や社会への貢献についての教育的意義は高かったと考えられる。</li> <li>・各行事の反省として実施しているアンケートからも学園祭、合唱コンクール等の行事および生徒会活動全般を通して、多くの生徒が意欲的・主体的に取り組むことができたと回答している。この教育環境を維持するためにも、教職員のライフワークバランスへの意識を高め、教職員が疲弊しない取組も視野に入れ、検証・改善していく。</li> </ul>

5 健康安全 信頼される学校 他	
達成状況	<p>◇教員アンケート⑮「あなたは日常の生徒の健康安全に心がけ、心身の健康に配慮している」は4.8、⑯「あなたは教職員としての自覚を持って、職務に従事している」が4.9と非常に高く、本校の教職員がきめ細やかに生徒を見取り、教員としての責任と自覚をもって、職務を遂行する意識が高いことが分かる。</p> <p>◇生徒・保護者のアンケートの「学校が楽しい」という設問に、生徒・保護者のどちらも肯定的回答が90%を超えていることから、学校の教育活動や人間関係も含めて、より良い教育環境が構築されてきていることがうかがえる。</p> <p>◇生徒アンケートの「生活の基本」の項目は生徒アンケートの全項目のなかで最も高く、生徒会の目標でもある「4つのこだわり」が生徒の中に浸透し、自主的な活動についても意欲をもって取り組んでいると考えられる。</p> <p>◇保護者アンケート⑦「学校は子どもの良さや努力を認めていると思いますか」、⑩「学校は、子どもの安全に配慮し、安全管理及び安全指導に努めていると思いますか」の項目について、肯定的回答は96%を超えていることから、保護者も本校職員が、子どもの心身の安全に配慮しながら教育活動に取り組んでいると考えていることがわかる。</p> <p>◇生徒アンケート⑮「家の人と学校生活の様子などについて話をしますか」は4.1で、全項目中最も低い評価になっている。それぞれの家庭の事情もあると思うが、各家庭との連携を深める取組を行っていく必要がある。</p>

対応	<ul style="list-style-type: none"><li>• 生徒の安全管理は、教職員の学校の設備や状況の把握が必要となる。想定できる生徒への危険、不安要素を確認し、どのような危険があるかを今後も意識し、情報共有をしていく必要がある。</li><li>• 学校生活において心配な状況のある生徒について、家庭環境についても把握し、状況に応じて全職員に情報共有し、組織的な生徒指導を行っていく。</li><li>• 部活動や特別活動の指導においても、安全対策や指導方法について、事後の反省行い、常に改善点や努力点を検討していく。</li><li>• 「学年たより」「給食・保健・図書・進路だより」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに、それらを通して家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。</li><li>• 今後も地域からの連絡や支援を大切にし、地域全体で子どもを育てる意識を醸成する。</li></ul>
----	---